



香月 浩之

奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 准教授
(前 光分子科学研究領域第二部門 助教)

感謝の辞

かつき・ひろゆき / 1997年京都大学理学部卒、2002年京都大学大学院理学研究科博士課程修了(博士(理学))、同年チューリヒ大博士研究員、2004年から分子科学研究所電子構造研究系助手、2007年改編により光分子科学研究領域助教。2012年6月より現職。

8年と2ヶ月半。

これが、私が分子研で過ごした期間である。助教の平均在任期間がどのくらいなのか知らないが、おそらく平均より少し長かったかと思う。いろいろとオトナの事情もあったけれども、一番の理由はやはり居心地が良かったということに尽きる。金銭、時間、設備のすべての面で研究に専念させてもらえる環境が整っている、そんな所で過ごしたこの8年間は私の研究者人生の中でも充実した期間として記憶されるであろうと思っている。

昨今、大学レベルでも大規模な装置が手に入るようになり、「分子研でなければできない」というような装置的なアドバンテージがなくなりつつあることは、多くの研究者が認めていることである。そういった意味で、共同利用機関としての分子研のプレゼンスが低下するのは、もはや仕方のないこと

だと私は思う。むしろ、分子研のウリはその「それほど大きくないけれどもそれなりの規模」と「東京からそこそこ離れていること」を生かしつつ、よりアグレッシブに新しいことに挑戦していく、そんな雰囲気や常を保持して所内外の若手研究者を鼓舞、啓発していくような、日本の基礎科学研究における駆け込み寺的な立ち位置ではないかと考えている。そういった精神で行われた研究ならば、たとえそれが失敗に終わったとしても、そこから学び、経験したことを無駄にせず、分子研を出た後もそういう精神を持ち続けて、新たな研究に挑む研究者が創られていくのではないだろうか(無論、私自身もそうでありたいと思う)。以上、ちょっとまじめな話をしてみました。まあ中年の戯れ言です。

あと世界中のいろいろな大学のキャンパスと比較して思うことは、もう少

し分子研にも安らげる環境があってもよいのではないだろうか。実験棟屋上にカフェテリアを開設するとか、中庭でウサギとリスの放し飼いをやってみるとか、正面の池で超高級錦鯉を飼ってみるとか、いかがだろうか。まあ中年の戯れ言です。

今後もちよくちよく分子研にお邪魔する予定があるので、また所内でお目にかかることもあるでしょう。そんな時は物珍しそうにチラ見するか、気軽に声をかけてくれたらと思います。最後になりましたが、分子研所属時にお世話になったたくさんの人々に改めて感謝したいと思います。中でも特に着任当初からのメンバーであった大森教授、技官の千葉さん、秘書の稲垣さんにはこの場を借りて、お礼を申し上げます。これは中年の戯れ言、ではなくて、心からの感謝の意をこめて。